問題点のまとめ

1. 国産材利用の範囲の拡大

①カスケード利用の推進　　　A材からバイオマス原料

②用途開発　　　　　材料評価　JAS規格の追加　　　新たな建材の開発　建築基準法への反映

2. サプライチェーンマネージメントの必要性

（1）木材産業サプライチェーンの現状

①IT化の遅れ　　　　　　　　森林林業・製材加工業のIT化のレベル

②情報インフラの整備の問題　高速通信網の公共性　　川下⇔川上　情報のジャストインタイム

（2）伊万里木材市場が取組むサプライチェーンマネージメント

① 流通コーディネーターによる需給マッチング

② 川上・川中・川下が一体となった流通コストの削減と原木カスケード利用

③ 九州内・地域内に高品質製品（九州・地域ブランド材）の安定供給

3. 国産材の現状と問題点　（マーケットインの視点から）

①量　　　　　カスケード利用カテゴリーごとの必要量

②品質　　　　カスケード利用カテゴリーごとの品質

③納期　　　　カスケード利用ごとの納期　ジャストインタイムは可能

情報を収集するシステムは？　情報を集約・発信するシステムは？　誰が構築し運営する？

「林業から脱却、もうかる森林産業へ」
～新たな木材需要から真に持続する森林経営を実現する～

「国産材のサプライチェーンマネージメント」

川中からの視点

平成24年9月10日

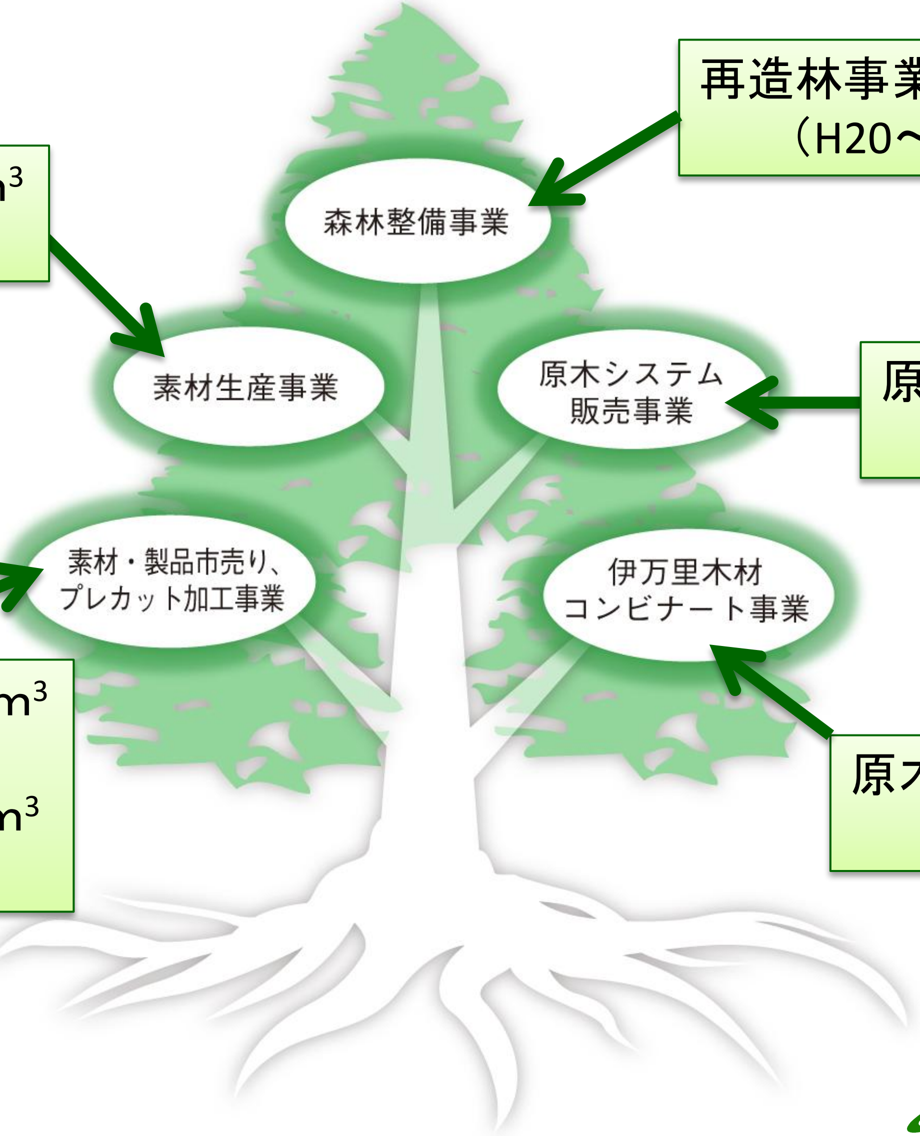
株式会社伊万里木材市場
事業計画推進室　藤村要

伊万里木材市場の事業内容

伊万里木材市場の5つの事業

素材生産量 60,000m³
（H23）

原木取扱量 143,000m³
（H23）
製品取扱 22,200m³
（H23）



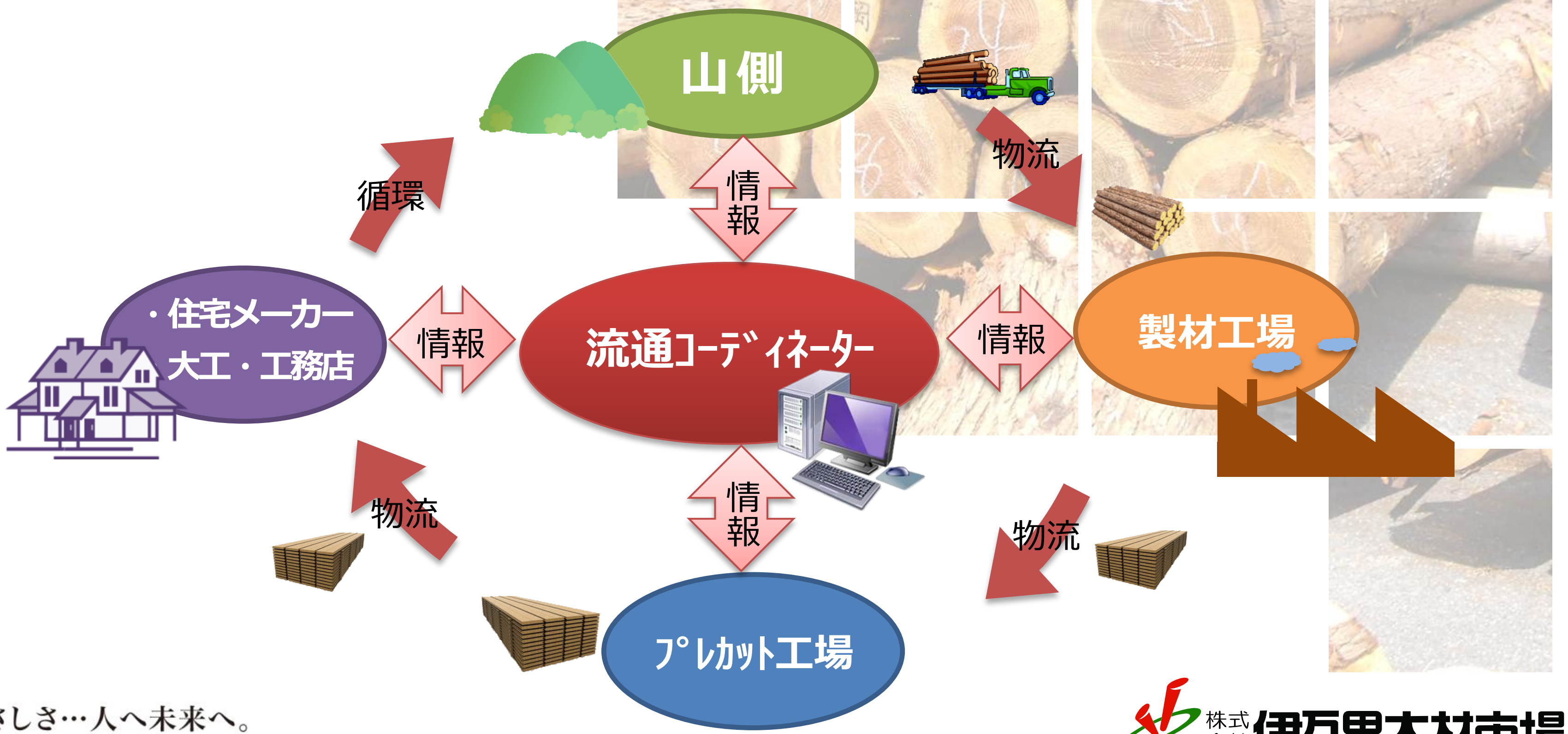
再造林事業地 122ha
（H20～H23)

原木販売量 81,400m³
（H23）

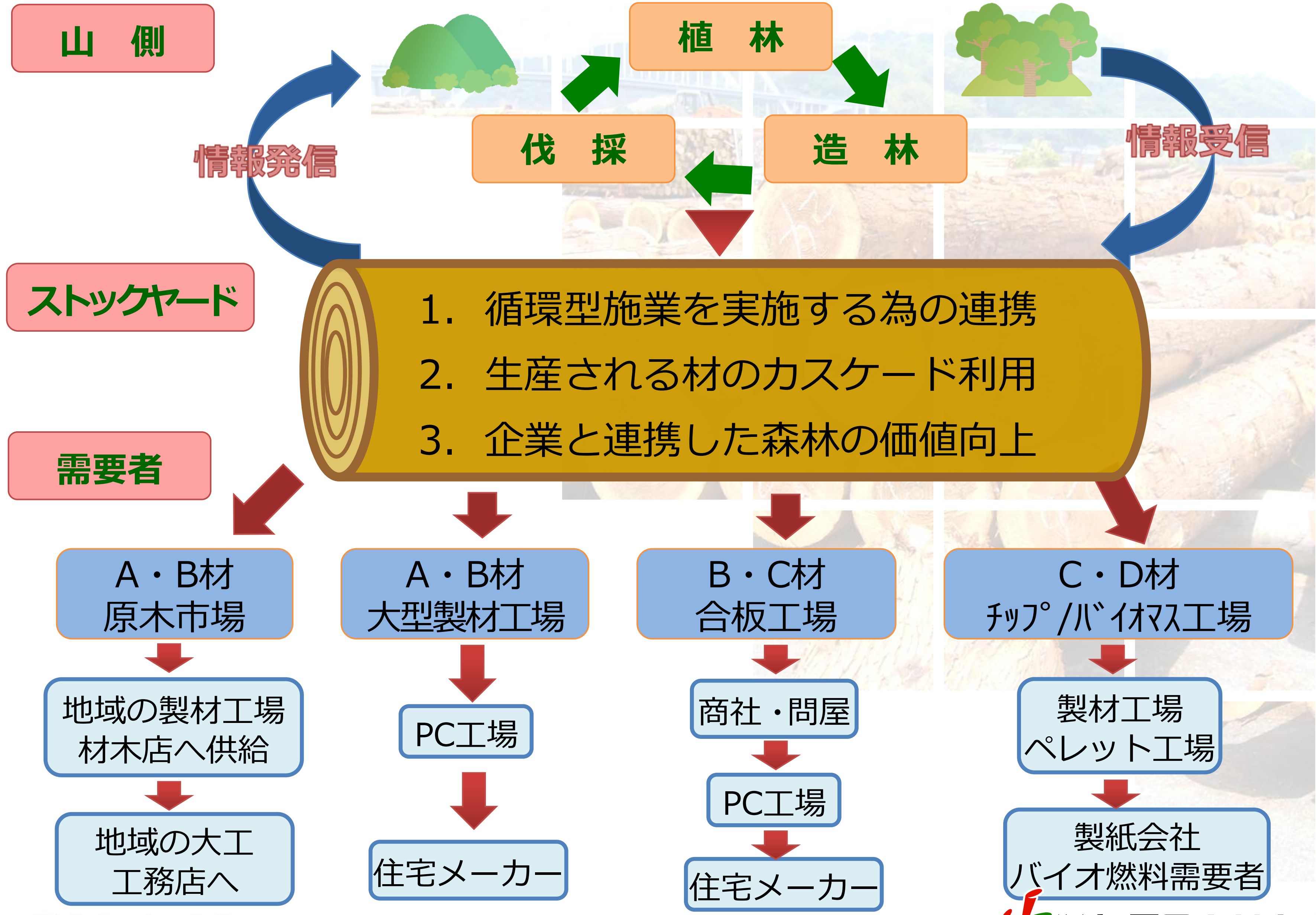
原木供給量 74,800m³
（H23）

サプライチェーンマネージメントの必要

マーケットに基づいた林業、木材産業を発展させる為には、原木や製品の流通過程の中で、生産、加工、物流、情報がジャストインタイムで提供できるサプライチェーンマネージメントの構築が必要。



1－① 川上・川中・川下が一体となった流通コストの削減と原木カスケード利用



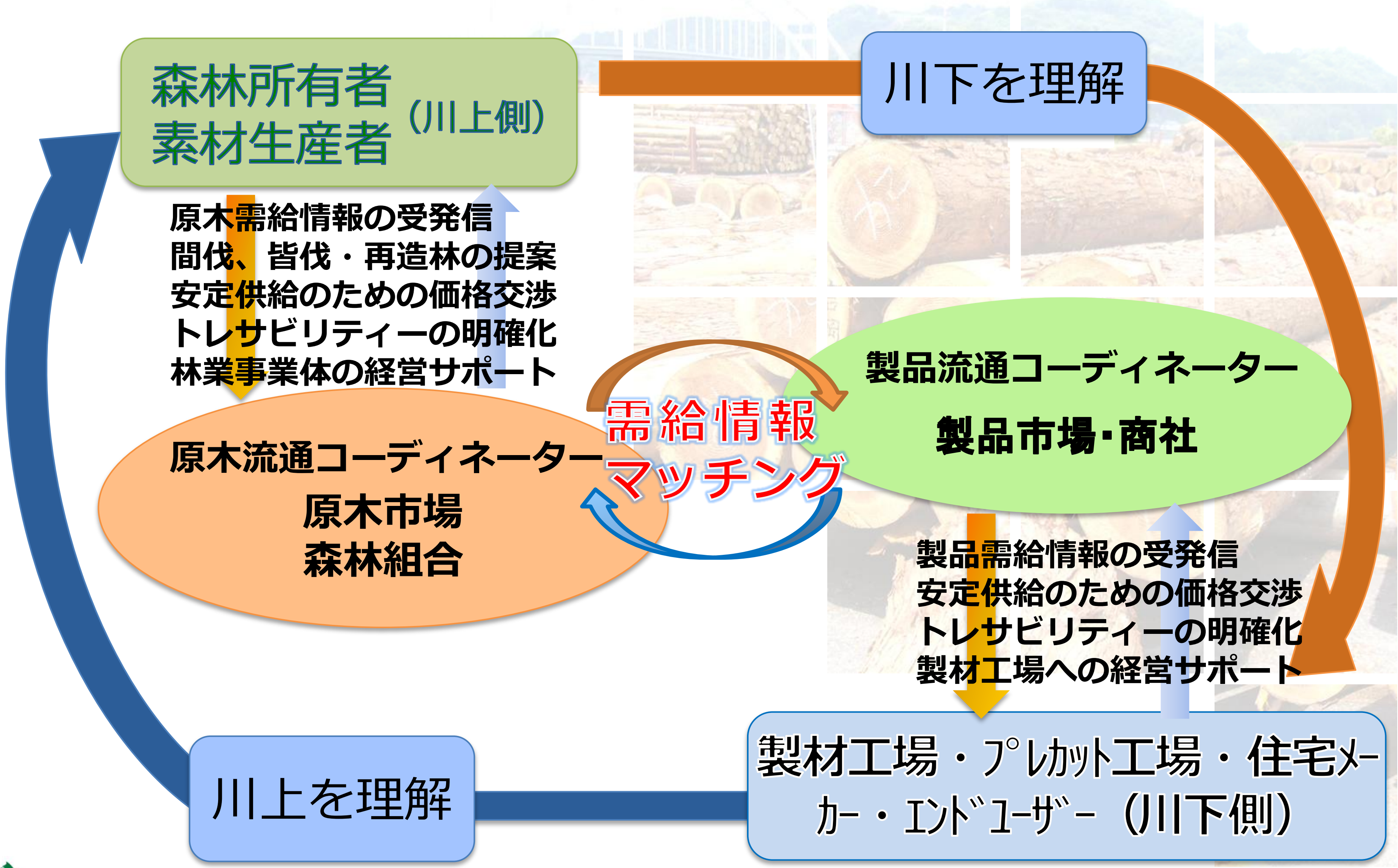
2－(2)　伊万里木材市場が取組む
サプライチェーンマネージメント

① 流通コーディネーターによる需給マッチング

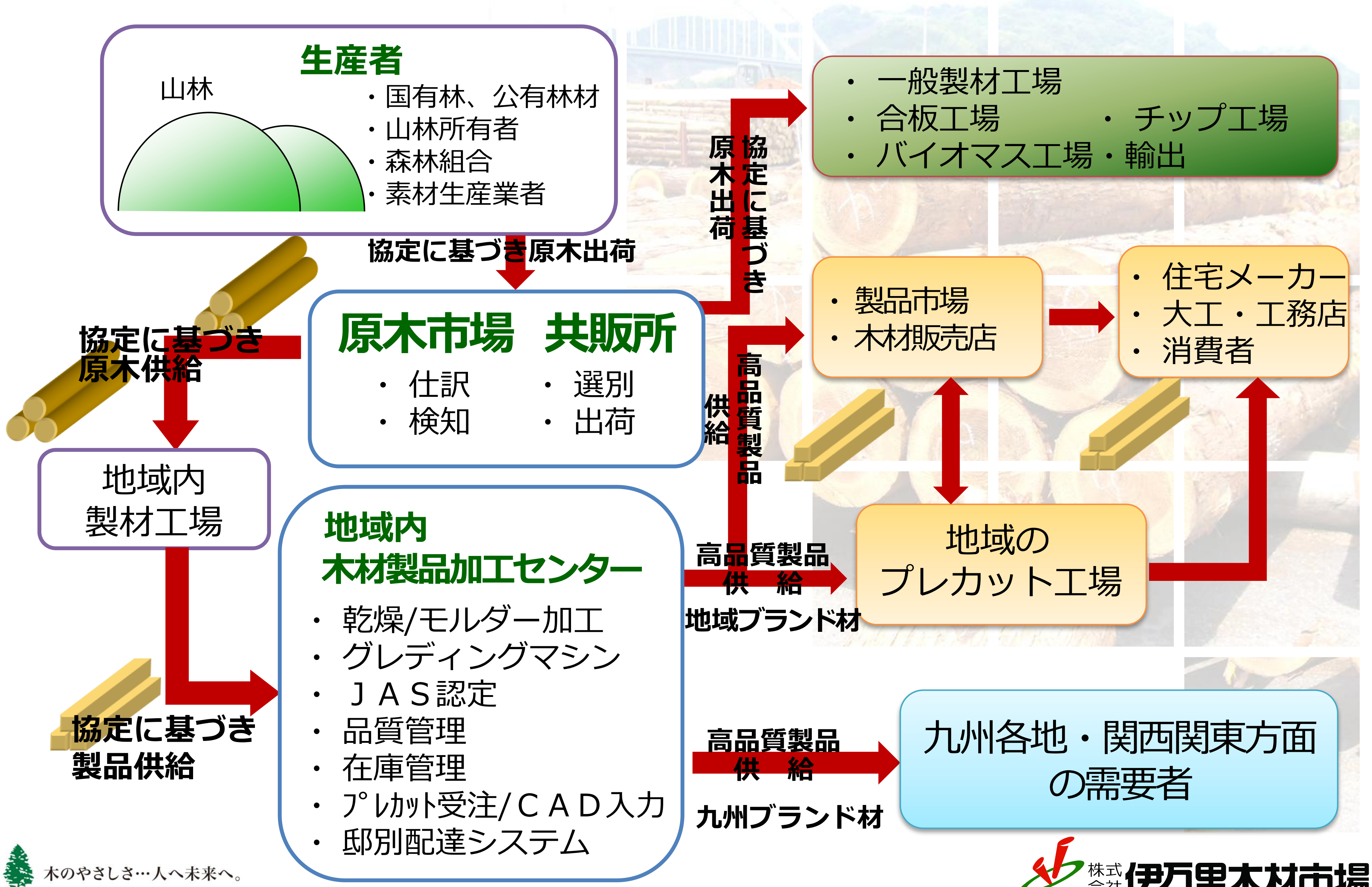
② 川上・川中・川下が一体となった流通コスト
の削減と原木カスケード利用

③ 九州内・地域内に高品質製品
（九州・地域ブランド 材）の安定供給

① 流通コーディネーターによる需給マッチング



③　九州内・地域内に高品質製品（九州・地域ブランド材）の安定供給



ご清聴ありがとうございました。